

西日本豪雨災害被災地支援ボランティアバス：神奈川災ボラ第6便（倉敷市）報告

文責 海老名災害ボランティアネットワーク（代表）福田博

【目的地】岡山県倉敷市真備町地区

【期日】9月22日（土）21時：横浜西口（県民サポートセンター）を出発、倉敷市へ
9月23日（日）8時頃：倉敷市ボランティアセンター到着、サテライトへ移動、
サテライトの指示により活動（終了15時）、センターに戻る⇒横浜へ戻る
9月24日（月）5時頃、横浜駅西口に到着、そこで解散。

【バス運行会社】神田交通株式会社、運転手2名

【ボラバス主催団体】神奈川災害ボランティアネットワーク（第6便）、参加者36名

【ボラバス運行リーダー】石橋友晴、高橋晃子（神奈川災ボラ加盟のボラバスチーム）

（1）被災地の被害状況（倉敷市真備町）

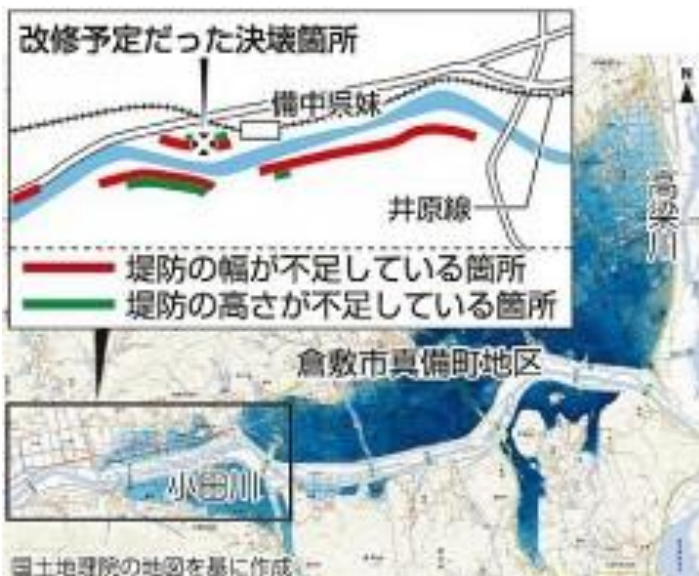
① 倉敷市真備町の地理的位置：

真備町は、倉敷市北部に位置し、北側で総社市と隣接する。（西日本豪雨災害被災地支援・神奈川災ボラ第1便は7月21日に総社市で活動した）。

中国山地（北）より南へ流れ下る1級河川「高梁川」は平野へ出て、総社市・倉敷市を通過して瀬戸内海に至る。真備町地区を西から東に向かって流れる小田川が、この高梁川に合流している。この合流地点から上流での被害が大きかった。

② 真備地区の被災状況：小田川の堤防決壊、浸水による犠牲者51名

7月9～10日の西日本豪雨により小田川の堤防が決壊、真備町地区の3割に当たる1200ヘクタールが浸水し、土木学会の調査によると、浸水深（浸水時の水位）は中心部で5.4メートルに達した。倉敷市が作製したハザードマップで示された浸水状況とほぼ一致している。西日本豪雨の人的被害の背景を調べた静岡大学の牛山教授は「真備町で完全に流された家は少なく、流出していない家屋で犠牲になった人が多い。犠牲者の発生場所も、浸水想定が深いエリアの中だ」と指摘。真備町地区では51人が犠牲になっている。西日本豪雨災害での



岡山県全体の犠牲者は61人で、このうちの51人が倉敷市真備町地区の犠牲者である。（文章は「神奈川新聞」9月6日付記事より抜粋）

小田川上流北岸の決壊箇所は堤防の高さ、幅ともに国の整備目標に満たず、改修予定であった（時期は未定）という。国管理の未改修区域は北岸では決壊箇所周辺に限られており、そこが水圧に耐え切れず重大な浸水被害を招いた可能性がある。（山陽新聞デジタル8月10日付の写真と記事）

(2) ボランティアの活動状況 (9月23日)

① 倉敷市災害ボランティアセンター(国の施設内の体育館に設置)の運営

倉敷市の災害ボランティアセンター(ボラセンと略す)は、独立行政法人「中国職業能力開発大学校」(岡山県倉敷市玉島長尾 1242-1)のキャンパス内の体育館内に設置され、体育館周辺のグラウンドが駐車場として利用されている。

災害ボランティアセンターを運営している人たちのピブスを見ると、倉敷市社会福祉協議会を中軸としつつ、同民生・児童委員会、日本赤十字社倉敷市支部、自治会関係者などたくさんのボランティアが毎日、交代で活動している様子が分かった。体育館内に100名くらいの椅子が用意され、登録をしたボランティアが座り、赤十字の方による「ボランティア活動への注意事項」の説明を受けた。説明では、20分間活動して10分間休憩というペースで活動して欲しいという要請があった。説明終了後、民間バス会社からチャーターした大型バス3台が、ボランティアをそれぞれのサテライト(被災現場に近い拠点)へピストン輸送する。私たちがサテライトへ移動すると、次のボランティアが椅子に座り、かなり円滑に移動しているようである。壁の掲示板を見ると、祝祭日には800名以上のボランティアが参集しているようだが、平日はこの半分以下の人数になるようである。

② サテライト(被災現場に近いボラセンの拠点)で、活動指示を受けて活動

神奈川災ボラのボラバスできたボランティア(36人)は、真備町地区内のサテライト(旭町、民間施設の空地にテントを建てている)に到着。ここで、3つのグループに分かれて、それぞれの活動場所へ向かった。被災した方の自宅の片付け・清掃が2グループ、公園の泥だし・清掃が1グループである。私は、被災した方の自宅の片付け(家具類の解体と室外への持ち出し)のグループに入った。サテライトのスタッフ(2~3名が常駐)より、力仕事なので男性のみ5名でグループを構成して欲しいと要請された。

サテライトのスタッフより詳細地図と活動指示書を渡され、テント前に置いてある道具を自分たちで選んで(大型のバール、ドライバーなど)、徒歩で指定されたお宅に向かった。

大阪からきたボランティア2名(若者)が軽貨物自動車(レンタカー)を借りていたので、その方に家から廃棄物集積場所までの運搬をお願いする中で2チームの共同作業となった。指定されたお宅に着くと、ご夫婦2人で家具類を2階から落していた。リーダーがあいさつして、活動内容の確認を行い、活動に入った。この家の方の話では、ボランティアが入るのは3回目で、家具や窓枠など家の中にある物全てを出した後に、解体業者によって解体する予定になっているとのことでした。安全の確保では、2階で活動する人と下で活動する人の合図が重要である。だいたい20分作業・10分休憩というペースで進められた。サテライトへ戻り、昼食を取って、午後も活動を続けた。災害ゴミを運搬した大阪のボランティアの話によると、ゴミ集積場では木材などの燃えるゴミ、家電製品やガラス製品など数種類に分けて置くようになっている。両チームの共同作業が順調に進み、午後2時半前には所定の作業を終え挨拶をして、サテライトへ戻った。サテライトから災害ボラセンまでバスで戻り、ボラセンから送迎バスで新倉敷に着き、入浴後、神田交通のバスで帰路についた。心地良い疲れで夜行バスの中でも眠れるかと思っただが、眠れずに、自宅に帰ってから眠った。以上